

千波湖で越冬昆虫を調査しました

当協会は、水戸市の協働事業として「千波湖環境学習会」を毎月1回開催しています。これは、体験しながら千波湖を取り巻く環境・温暖化問題を参加者の市民の皆様と考えていこうという趣旨で開催しています。今年度第8回目となる今回のテーマは、「地球温暖化と千波湖周辺の越冬昆虫を調べよう」で、身近な取組で行える暖房由来の温室ガス削減方法を学んだ後、少年の森で越冬昆虫の調査を行いました。

学習会開催の12月4日は、雲の多い天候でしたが、小春日和の比較的暖かな日となりました。まず、当協会（茨城県地球温暖化防止活動推進センター）職員が講師となりクイズ形式で温暖化防止方法について学習しました。「暖房でどの機器が一番二酸化炭素排出が少ない？」との質問に対し、①エアコン、②ガスストーブ、③石油ストーブ、④電気ストーブから選択する問題では多くの方が石油ストーブとの回答でしたが、実際の回答は①のエアコンになります。暖房時にエアコンから排出される二酸化炭素を1とした場合、②は2.7、③は3.2、④は5.25倍となります。ただし、外気温が0℃を下回るとエアコンの効率が低下するので、既存の機器を選択して上手に暖房しましょうと説明がありました。



昆虫の探し方の説明

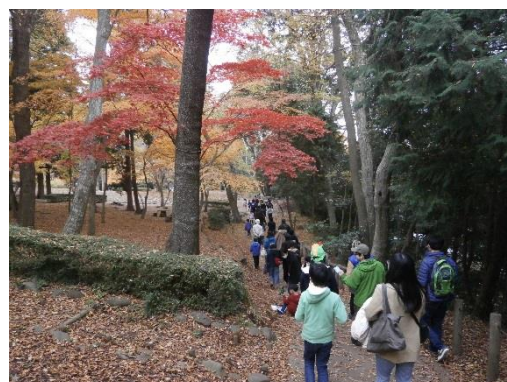
その後、茨城県の環境アドバイザーに登録している佐々木泰弘氏の指導のもと、千波湖に隣接している少年の森に移動して越冬昆虫の調査を行いました。

まず、佐々木先生より「落ち葉の裏側を丁寧にみること」、「越冬するのは気温が一定となる木々の北側を探ること」など昆虫の探し方、越冬している場所等の説明がありました。その後、子ども達は一斉に散らばり、落ち葉の中や切り株の北側、石の裏など様々な場所について夢中になり昆虫を探しました。

その結果、多くの昆虫を確認することができ、中でも通称「ハートカメムシ」と呼ばれる背中にハート模様のあるエサキモンキツノカメムシを見つけたときには歓声があがりました。

ピークは過ぎたものの、赤く染まった木々の下でたくさん昆虫が見つかり越冬している生態を学習することができました。

※1月15日開催予定であった「千波湖の渡り鳥を調べよう」は鳥インフルエンザ拡大予防のため水戸市の要請もあり中止させていただきました。



真っ赤な紅葉が見られました